

ゆたかに学べる教育の実現をめざして高知市に小・中・高、寄宿舎のある
県立の100名規模の知的障害特別支援学校をつくる会
主な取り組みと経過

2019年10月21日

私たちの目的とねがいは、会の名称にすべて盛り込まれています。

- 8月24日 保護者の声を聴く会・・・資料1

- 9月5日 第1回準備会

- 9月15日 第2回準備会

- 9月23日 シンポジウム・結成総会・・・資料2
声の抜粋・・・資料6
*要請署名スタート⇒署名到達数 当日口頭報告・・・資料3
*教育長への要請ハガキスタート
*「学校をつくる会」ニュース第1号発行・・・資料4

- 10月5日 特別支援学級の先生の声聴く会・・・資料5

- 10月14日 街頭宣伝署名活動（帯屋町中央公園北側）
学習会「学校建設を進め、子どもたちがのびのび学べる環境を」
全日本教職員組合障害児教育部長 佐竹 葉子氏

- 10月19日 親の想いを語る会

- 10月21日 第3回検討委員会への意見陳述

1. 關於本會之宗旨及業務範圍，業經本會第一屆會員大會通過，並經主管機關核准在案。本會自成立以來，即積極推行各項業務，以促進我國社會福利事業之發展為宗旨。茲將本會業務範圍列後：

本會之業務範圍

1. 辦理社會福利事業之研究、調查、統計及資料之彙編。

2. 辦理社會福利事業之宣傳、教育及訓練。

3. 辦理社會福利事業之諮詢、輔導及服務。

4. 辦理社會福利事業之合作、聯繫及推廣。

5. 辦理社會福利事業之其他業務。

本會為達成上述宗旨及業務範圍，特訂定本會章程，並經會員大會通過，呈請主管機關核准在案。本會自成立以來，即積極推行各項業務，以促進我國社會福利事業之發展為宗旨。

本會之業務範圍，除上述各項業務外，尚包括社會福利事業之研究、調查、統計及資料之彙編，社會福利事業之宣傳、教育及訓練，社會福利事業之諮詢、輔導及服務，社會福利事業之合作、聯繫及推廣，及社會福利事業之其他業務。

本會之業務範圍，除上述各項業務外，尚包括社會福利事業之研究、調查、統計及資料之彙編，社會福利事業之宣傳、教育及訓練，社會福利事業之諮詢、輔導及服務，社會福利事業之合作、聯繫及推廣，及社會福利事業之其他業務。

本會之業務範圍，除上述各項業務外，尚包括社會福利事業之研究、調查、統計及資料之彙編，社會福利事業之宣傳、教育及訓練，社會福利事業之諮詢、輔導及服務，社會福利事業之合作、聯繫及推廣，及社會福利事業之其他業務。

本會之業務範圍，除上述各項業務外，尚包括社會福利事業之研究、調查、統計及資料之彙編，社會福利事業之宣傳、教育及訓練，社會福利事業之諮詢、輔導及服務，社會福利事業之合作、聯繫及推廣，及社會福利事業之其他業務。

本會之業務範圍，除上述各項業務外，尚包括社會福利事業之研究、調查、統計及資料之彙編，社會福利事業之宣傳、教育及訓練，社會福利事業之諮詢、輔導及服務，社會福利事業之合作、聯繫及推廣，及社會福利事業之其他業務。

本會之業務範圍，除上述各項業務外，尚包括社會福利事業之研究、調查、統計及資料之彙編，社會福利事業之宣傳、教育及訓練，社會福利事業之諮詢、輔導及服務，社會福利事業之合作、聯繫及推廣，及社會福利事業之其他業務。

本會之業務範圍，除上述各項業務外，尚包括社會福利事業之研究、調查、統計及資料之彙編，社會福利事業之宣傳、教育及訓練，社會福利事業之諮詢、輔導及服務，社會福利事業之合作、聯繫及推廣，及社會福利事業之其他業務。

本會之業務範圍，除上述各項業務外，尚包括社會福利事業之研究、調查、統計及資料之彙編，社會福利事業之宣傳、教育及訓練，社會福利事業之諮詢、輔導及服務，社會福利事業之合作、聯繫及推廣，及社會福利事業之其他業務。

資料1 8月24日（保護者の発言要旨）

学校選択・就学指導の場面で

- ・山田はいっぱいだから、入れないと言われた（小・知的学級）
- ・中学より特支を相談した時に、研究所から山田は無理だとの話だった。高知市の東部の方は山田に近いから可能性はあるが、高知特支へと言われた（中・知的学級）
- ・中学より山田を希望したが、見学に行ったとき、いっぱいだから入れないと言われた（中・特支）
- ・特別支援学校に入学を希望、兄弟が上にも下にもいるので、高知市以外の学校は無理で、高知特支に入学（小・特支）
- ・特別支援学校を希望して高知市内へ移住してきたが、会話は十分じゃないものの言葉があるのでそんなに重度じゃない、支援学級が適だと言われた（小・知的学級）

学校に期待すること

（学部）

- ・自立の力をつけるためにも、高等部の人を見て、ああいう風になりたいと見えるようにするためにも、小中高ある学校がいい。
- ・長い目でみることができるよう、あっちこっちいくのではなく、ある安心していける学校がほしい。全学部が必要。
- ・小学校から高校まで、地域で手厚くみてもらえる学校がほしい。

（寄宿舍）

- ・家庭事情への対応の事例が増えている。寄宿舍は絶対必要。
- ・週に2～3泊できるように、訓練施設があったらいいと思う。
- ・自立に向けて、日常生活動作の力をつけるために寄宿舍が必要。
- ・家では、親が手を出してしまうので、寄宿舍にいれることを考えたらいいのだろうかと思う。

（スクールバス等）

- ・自分で通いにくい児童生徒がいるので必要。
- ・現在、スクールバスの送迎のために、仕事を続けられない人がいる。
- ・スクールバスの介助さんが現在2名乗ってくれている。介助さんの確保が必要。
- ・1時間半かかっている場合がある。東西だけでなく南北のルートが必要。

（教育内容について）

- ・専門性の高い教育を望む。
- ・子どもが自立して生きていける力をつけることを望む。
- ・知的があっても、学習の積み上げができる、教科の学習にも取り組んでもらいたい。
- ・中には、障害児教育への意識の低い先生がいる。
- ・子どもが増えることで、先生も増えている。意識のない先生が、そのまま教育を進めて時間が進んでいることが不満である。意志のある先生方に集まってもらいたい。

(その他)

- 学校の新設が希望だが、できるまでの近々の受け入れ場所が必要だ。
- 新設を約束したうえで、それまでの間借りの対応というのはできないの？
- 現在の特別支援学校への入学にあたって、仕事を辞めてまで対応しなければならない状況がある。
- 高知市にほしい。
- 新設をお願いしたい。
- 防災面でも、福祉避難所としての役割を果たせる学校であってほしい。

(要求のまとめ)

- 学校をどうつくっていくか。
- 小中高の全学部のある学校ということで、100人規模で寄宿舍もある学校が必要。
- 高知市内の障害児教育を障害児学級も含めてより良くするという観点で進める。
- 専門性、一貫性、自立の力が高まるような見直しと学校づくりを進める。

2019年9月23日
高知城ホール2階 PM2:00～

1 「会」の目的と取り組み

〈目的〉

- ・高知市に小・中・高、寄宿舎のある県立の100名規模の知的障害特別支援学校を新設する
- ・ゆたかに学べる知的特別支援教育の実現と教育条件整備を求める

〈運動の基調〉

子どもたちの声が聞こえます。「なぜふたつに間仕切りした教室なの?」「勉強道具を置く場所がないのはどうして?」「調理は調理室でしたい!」「校舎にトイレがなくて間に合わない!」。過密化の中で我慢を強いられる山田、日高、高知の各特別支援学校で学ぶ子どもたちの声です。また一方で、高知市内特別支援学級に在籍する保護者からは「特別支援学校で入れるところがあるかどうか心配」「山田や日高は遠い」「寄宿舎を希望しても入れないのでは」などの不安の声が聞こえます。

少子化がいわれる今日でも、特別支援教育への理解の広がりや早期からの専門的な教育を望む保護者のねがいなどを背景に、知的障害特別支援学校に在籍する児童生徒数は増加傾向が続いています。山田・日高、高知の各特別支援学校の過密化解消策として、高知市内に新たな知的障害特別支援学校をつくることは、喫緊の課題であり、みんなのねがいとなっています。それでは高知市内につくる新たな学校に寄せるねがいには、どのようなものがあるのでしょうか。

私たちは、子ども・保護者、教職員、福祉関係者などの声を可能な限り聞き取り、それらの多様な声に込められているねがいを次のようにまとめてみました。

- ① 山田・日高、高知の各特別支援学校の過密化が抜本的に改善されること。
(在籍児童生徒数の適正規模化)
- ② 知的障害教育の専門性を蓄積し子どもたちの成長へのねがいに応えられる学校であること。
(知的障害教育の専門性)
- ③ 小学部・中学部・高等部があり将来が見通せる教育ができる学校であること。
(一貫性のある教育)
- ④ 子どもたちの学びを保障し、子どもたちが毎日の生活を営みながら、生活基盤を整え、仲間と共に学び合い、自立と社会参加に向けた力をはぐくむ寄宿舎を有する学校。
(寄宿舎の設置)
- ⑤ 地域でくらすことを願う子どもと保護者が学校選択を考える際、子どもの成長・発達に合わせて通常学級・特別支援学級・今ある特別支援学校に加えて新たな選択肢となりえる学校。
(選択肢の拡大)

新たに学校をつくるということは、子どもたちの成長へのねがいを実現していく営みでもあります。子どもたちの学びの場としての教育条件・教育環境を充実することは、一人ひとりを大切にした教育を生み出す土台となるものです。現在山田・日高、高知の各特別支援学校で学ぶ子どもたちはいうまでもなく、高知市内の通常学級・特別支援学級で学ぶ子どもたちのねがいも視野に入れて、新たにつくる学校にこめるねがいをより豊かにしていきましょう。そして「高知市に

小・中・高、寄宿舎のある県立の 100 名規模の知的障害特別支援学校を新設する」運動をとおして、障害のある子どもと保護者、保育、教育、福祉などの幅広い立場のみなさんとの連携・共同を深め、障害のある子どもの教育を前進させましょう。

〈具体的取り組み〉

- ① 県下の知的障害特別支援学校の現状を広く県民に知らせる
- ② 保護者の幅広い思いや願いを集約する
- ③ 知的障害特別支援学校及び寄宿舎の新設に関わる学習をすすめ、合意を広げる
- ④ 学校新設に向けた世論を高める

2 「会」の名称および会計・規約(別紙)

名称：ゆたかに学べる教育の実現をめざして高知市に小・中・高、寄宿舎のある県立の 100 名規模の知的障害特別支援学校をつくる会（略称：「学校をつくる会」）

3 「会」の体制

共同代表 平井とも子、岡林卓司、岡本みち子、田中正

事務局：高教組

事務局長：中藤美紀

事務局員：竹嶋昇吾、松本誠司、他若干名

4 構成団体（50 音順、9 月 23 日現在）

きょうされん高知支部／こうちうつぐみの会／高知県教職員組合

高知県高等学校教職員組合

高知県視力障害者の生活と権利を守る会／高知県聴覚障害者協会／高知県母親運動連絡会

高知県保育運動連絡会／こころとからだの発達相談塾えいところ

子どもと教育を守る高知県連絡会

障害者の生活と権利を守る高知県連絡協議会／新日本婦人の会高知県本部

全国障害者問題研究会高知支部

日本ダウン症協会高知小鳩会支部

Hug meーはぐくみー発達サポートをみんなと一緒に考える会

資料3

高知県知事 様 / 高知県教育長 様

高知市に小・中・高、寄宿舎のある県立の 100名規模の知的障害特別支援学校の 新設を求める要請署名

【署名趣旨】

子どもたちの声が聞こえます。「なぜふたつに間仕切りした教室なの?」「勉強道具を置く場所がないのはどうして?」「調理は調理室で勉強したい!」「校舎にトイレがなくて間に合わない!」。過密化の中で我慢を強いられる山田・日高、高知の各特別支援学校で学ぶ子どもたちの声です。また一方で、高知市内特別支援学級に在籍する保護者からは「高等部で入れるところがあるか」「山田や日高は遠い」「寄宿舎に入れないのでは」などの不安の声が聞こえます。

少子化がいわれる今日でも、特別支援教育への理解の広がりや早期からの専門的な教育を望む保護者のねがいなどを背景に、知的障害特別支援学校に在籍する児童生徒数は増加傾向が続いています。山田・日高、高知の各特別支援学校の過密化解消策として、高知市内に新たな知的障害特別支援学校をつくることは、喫緊の課題であり、みんなのねがいとなっています。

子どもと保護者が学校選択を考える際、子どもの成長・発達に合わせて通常学級・特別支援学級・今ある特別支援学校に加えて新たな選択肢となりえる学校が必要です。その学校には、子どもたちが毎日の生活を営みながら、生活基盤を整え、仲間と共に学び合い、自立と社会参加に向けた力をはぐくむ寄宿舎を有することを切望します。上記の実態を踏まえ、下記の事項について実現してください。

【要請項目】

- 1 高知市に小・中・高等部のある100名規模の県立の知的障害特別支援学校を新設してください。
- 2 新設の学校には、教育を保障し、自立と社会参加に向けて、多様なニーズにこたえていけるよう、寄宿舎を併設してください。



ネット署名
Change.org
ご賛同を!

スマホのバーコードリーダーをかざすと署名の画面につながります。

氏名	住所
	都道府県
	都道府県
	都道府県
	都道府県
	都道府県

※この個人情報は、要請以外には使用しません。

ゆたかに学べる教育の実現をめざして高知市に小・中・高、寄宿舎のある
県立の100名規模の知的障害特別支援学校をつくる会 (略称 学校をつくる会)

〒780-0850 高知市丸ノ内2-1-10 Tel (088) 822-6822

E-mail: k.tsukuru2019@gmail.com

ゆたかに学べる教育の実現をめざして高知市に小・中・高、寄宿舎のある県立の100名規模の知的障害特別支援学校をつくる会（略称 学校をつくる会）

結成総会 & シンポジウムでスタート！

2019年9月23日（月）、高知城ホールに87名（託児も含み！）が集まり、私たちの望む学校について熱く語り合いました。シンポジウムでは、それぞれのお母さんの思いに胸をうたれました。そして、「障害のある子ども、それぞれの子どもにふさわしい、今、必要な教育支援と一緒に考えてくれるような環境が必要と思っている。あちらの学校もいっぱい、こちらの学校もいっぱい、キャパシティに限りがあるような学校ではなくて、ぜひ支援が必要な子どもたちの教育を、立て直すようにやっていただきたい、そういうことによって、社会、みんなの気持ちが和らいで余裕のあるような生活ができる、というような、高知県になってもらいたい」というお母さんの声に、子どもたちのための学校がある、建物も教育内容充実させていきたいと、あらためて思ったことでした。

活動としては、

- ①要請署名を12月末までに5000筆集めよう！
 - ②教育長に要請はがきを出そう！
 - ③検討委員会で当事者の声を意見陳述できるように要望しよう！
 - ④高知県教育長と懇談しよう！
 - ⑤投書など世論に訴えよう！
 - ⑥全国の様子など、学んで力にしよう！
 - ⑦保護者の声、教職員の声、福祉の声、をしっかりと聴き、訴えていこう！
 - ⑧この秋の高知県知事・高知市長選挙の候補者に公開質問状をだしてみよう！
- etc...
なんでも、できることはチャレンジしていこうというスタンスです。
ゆたかな学びにむけて、お互いに知恵をだしあって、行動していきましょー！！

特別支援学校の新設を求める「学校をつくる会」の結成総会。テーブルを使って現状の教室の手狭さなどが説明された（高知市丸ノ内2丁目の高知城ホール）



県内で特別支援校に通う知的障害のある児童生徒が増え、各校が手狭になっているとして、保護者や教員、福祉団体などが23日、高知市内への新設設備を求める「学校をつくる会」を結成した。小・中・高等部と寄宿舎のある100人規模の新校が必要だとし、署名活動などで実現を目指すとしている。（今川彩香）

高知市に特別支援校を

100人規模想定「つくる会」発足

署名活動など実施へ

県内に知的障害のある子どもを対象にした特別支援学校は公立、私立で計8校。このうち県立と高知市立6校の児童生徒数は、1994年度の37人から増え、本年度は61人とう倍になった。

県教委によると、特別支援教育への理解が進んで、早期から専門的な教育を望む保護者が増えたため、特に県中央部の過密化が進んでいる。これに対し「つくる会」は、高知市内で保護者ら約80人が出席して結成総会を開き、学習会や首長への要請を通じ実現を目指すことを決めた。教員らと交えてシンポジウムも開き、「最低限の教室も確保できない状況では豊かな教育はできない。早急に対応を」といった意見が出された。

署名活動などの問い合わせは県高教組（0800・8022・6002）へ。

「会」は、高知市内から県立山田（高美市）や県立白鷺（日高村）に通う生徒が約100人いる▽高知市立に寄宿舎がなく、集団生活を学ぶでほしいと面校を選ぶ家庭もある▽空き施設の活用では専門的な支援ニーズに応えられない▽し、寄宿舎のある100人規模の県立校が高知市に必要だとしている。

第3回

「高知県における知的障害特別支援学校の在り方に関する検討委員会」

日時 10月21日（月）18:30～20:30

会場 高知県立県民文化ホール第11多目的室

今回、「つくる会」の代表による意見陳述ができるように要望しています。

傍聴に行ける方はぜひご参加ください。

新しい知的障害特別支援学校がいるがよ！

- ・高知市内から日高や山田の学校に通うのは、大変だと思います。病気や災害などの時、すぐにお迎えに行けるところに通わせたいし、日々安心です。すぐにでも、建設していただきたいです。
- ・子どもの選択肢を増やしてもらいたい！自立をめざしての支援はしっかりしてもらいたい！
- ・現在の特別支援学校への入学にあたって、仕事をやめてまで対応しなければならない状況がある。高知市にほしい。
- ・自立の力をつけるためにも、高等部の人を見て、ああいう風になりたいと見えるようにするためにも、小中高ある学校がいい。
- ・全学部が必要、長い目でみることができるよう、あっちこっちいくのではなく、安心していける学校がほしい。
- ・その子に合った適切な支援があり能力が開花すれば、職業に就いて自立することも可能になると思います。1人でも自活できる子を増やすことが、ゆくゆく社会の一員として共生がかなうものと確信します。そのような社会になるように、必要な支援を子どもたちに希望します。
- ・高知市内に通える支援学校があると、すごくありがたいです。家の近くに、子どもに合った学びのできる学校が欲しいです。
(保護者の声)

高知県は共働き率が非常に高く、特別支援学校に通われるお子さんは、放課後等デイサービスの利用が必要になります。しかし、高知市外には放課後等デイサービスの数は少ない状況です。子どもたちのよりよい生活を実現するためには、家庭・学校・サービスが手を取り合うことが重要であるにもかかわらず、そういった環境が不十分であると思われます。高知市内に新設の学校が必要です。

(放課後デイの声)

保護者の皆さんや放課後等デイサービスさんから、多くの声やFAXが届きました！



- ・家庭事情へ対応する事例が増えている。寄宿舎は絶対必要！
- ・自立に向けて、日常生活動作の力をつけるために寄宿舎が必要！
- ・安心して通うためにはスクールバスの整備は必要！

(保護者、舎指導員の声)

特別支援学校は、、、もう、いっぱい！

- ・作業道具や教材を置くところがないから、廊下に置くしかない。
- ・しっかり生徒の話を聞こうと思っても、別室が、ひとつもない！
- ・発達段階に応じた国語や数学の授業を組みたいが、分けて使用できる教室がない！
- ・ダイナミックな授業をしたくても、準備や片づけるスペースがなく、こじんまりとした授業になってしまいがち。
- ・トイレのない校舎があるため、その校舎での授業のときは、遠くのトイレにいかざるをえない、、、。

(学校教職員の声)



みなさん、検討委員会の論議に、注目です！！！！

この7月から、「高知県における知的障害特別支援学校の在り方に関する検討委員会」（以下、検討委員会、県教委主催、10月までの計4回予定）が開催されています。これは、知的障害特別支援学校の児童生徒数増加、狭隘化を解消するための検討委員会で、すでに第2回までが終わり、10月には会のまとめが出され、来年度に向け、予算化がされる計画で進められています。私たちは、10年以上前から子どもたちの豊かな学習を保障するために知的障害特別支援学校の新設を要求してきました。

教育委員会は、今回、特別支援学校の児童生徒の増加が続く見通しを示し、「50人程度の児童生徒を受け入れる教場の整備が必要」と方向性をだしました。検討委員からは、小・中・高、寄宿舎のある学校をつくり、日高や山田以外の選択肢を広げることが多様なニーズにこたえられることにならないかと、私たちの願いと一致する意見もたくさん出されています。しかし、検討委員会では、既存施設を利用した施設整備をする方向で検討が進んでいます。

私たちは、それでは根本的な解決にはならないと考えています。そして、小・中・高のある環境で教育を行うことで、子どもや親が近い将来の姿を見ながら育つことができると考えます。また、寄宿舎があることで、保護者や家族の生活の負担を減らすことができ、卒業後の自立した生活を準備することもできます。生活・養育困難な家庭も増えてきており、ますます、その役割は大きいと思います。

高知県内で、障害のある子どもたちの数が一番多い高知市に、県立の知的障害特別支援学校が必要です。「高知市に小・中・高、寄宿舎のある県立の100名規模の知的障害特別支援学校を新設することを提案」（以下、「提案」）しています。私たちは、この「提案」を特別支援教育課や検討委員の方々へ送付し、直接懇談する場をもち、学校の現状や要望を伝えてきました。また、広く県民に意見を求めるために、県下の放課後等デイサービス事業所にも「提案」を届け、意見をお聞きしました。

保護者の願い「新しい学校がいる！」

その取り組みの中で、保護者の方からいくつもの声が届けられています。また、保護者の意見を聞く会を開き、どんな学校が必要なのか出しました。

「自立の力をつけてほしい」「小学部から高等部まで、地域で手厚くみてもらえる学校がほしい」「寄宿舎とスクールバスは絶対必要」「専門性の高い教育をしてほしい」「地域で障害児が大切にされ、安心して学べる教育条件を整えてほしい」とどれも切実な願いでした。多くの保護者は、小・中・高、寄宿舎のある知的障害特別支援学校を望んでいます。私たちは、保護者とともに「高知市に小・中・高、寄宿舎のある県立の100名規模の知的障害特別支援学校」をつくる声を高め、高知県に対して引き続き要望していきたいと考えています。



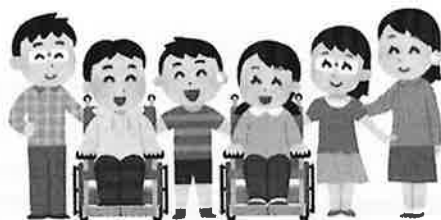
社会が多様化し、地域の福祉力が問われる中で、障害が多様化・重複化する中で、児童生徒の学びを保障する場として各学部ごとに集まることができる**多目的室をひとつ**、各学部ごとに**カームダウン室をひとつ**、各学部**個別学習対応の教室をひとつ**、**寄宿舎のある**学校を目指すことは大切です。

*カームダウン室は、生徒自身が自分で落ち着き、将来の自立をめざして環境調整を学ぶ場です。

「子どもたちに施設の不十分さで我慢を強いながら学校生活を送るのではなく、ゆったり授業をさせてあげたい」

「準備の整った特別教室で、少し落ち着いた空間で、気持ちを落ち着けるための空間で、豊かな教育をしていきたい」

各知的障害特別学校の教室数などを数え、施設に合った児童生徒数を割り出し、何より子どもたちを全教職員で責任をもって見守ることのできる学校規模として100名程度がいいと思います。



ご意見をお寄せ下さい。

学校をつくる会

Tel : 088-822-6822 Fax : 088-822-6823

E-mail : k.tsukuru2019@gmail.com

私たちの提案

高知市に小・中・高、寄宿舎のある 100名規模の新しい学校が必要と考えます。

理由1 知的障害対象の児童生徒数は、少子化の中でも、緩やかに今後も増え続けることが予測されます。

理由2 現在、高知市内に住む100名近い児童生徒が、高知市ではない東西の知的障害の学校（日高特支・山田特支）に通っています。（高知市から日高特支に約30名、山田特支に約60名）



理由3 県教育委員会の試算する受け入れ目安値は、日高特支120名、山田特支144名、高知市特支144名となっていますが、現在の山田・日高・高知の学校環境を考えると実態に合っておらず、日高と山田は、児童生徒100名が適正、高知特支は120名が適正と考えます。3校の試算目安値の差は90名程度となり、それらの児童生徒数を受け入れる学校の必要性が浮かび上がってきます。

*現在日高特支は112名、山田特支は187名、高知特支は130名です。

理由4 既存施設を活用した対応では、児童生徒数の増加と、特別支援教育の専門性のニーズに応えることは難しいと考えます。そのため、現在ある知的障害特別支援学校規模の県立の新設学校が必要です。

理由5 寄宿舎入舎を希望する家庭の多くは、子どもの「自立のために」寄宿舎の教育的な魅力・役割に期待しています。また、家庭状況、事情も多様化している現代にあっては、家庭への支援も視野に入れる必要があります。寄宿舎は生活そのものを通じて生きる力や豊かな人間性を育むなど、教育的意義の大きい環境です。寄宿舎があるから日高・山田を選択していると考え、理由1~4の解決に大きく関わることとして、寄宿舎の設置も必要です。

ご意見をお寄せ下さい。

学校をつくる会(事務局：高知城ホール内)

Tel：088-822-6822 Fax：088-822-6823

E-mail：k.tsukuru2019@gmail.com

高知市に小・中・高、寄宿舍のある県立の
100名規模の知的特別支援学校をつくるための
特別支援学級の先生方の意見交換会

日時：2019年10月5日（土）

- (1) 特別な支援が必要で支援学級の在籍になっているが、実際の支援学級の構成が、1～6年生の複数学年にまたがり、支援学級の担任1人で最大8名の児童・生徒を把握し、個別に配慮しながら対応することは、難しさがある。特別支援学校に行った方が手厚い指導で伸びるのではないかと思うときがある。
- ・各学年の時間割にそって、交流学級の授業の出席し対応するのも難しい。
 - ・日々の実践について相談できる環境がない。
 - ・中学校の「自閉症・情緒障害学級」の担任は講師が着任しているところが多く、毎年、担任が変わることになる。また、専門の教科も持つことになっており、その授業に行くときは、別の教員が学級の生徒の授業に入ることになる。
- (2) 中学校の特別支援学級の生徒は、進路先が限定されがちになる。それまで、地域の学校に通っていたのに、特別支援学校の高等部となると、高知市以外になることが多い。
- (3) 小中学校段階の就学指導の課題が多い。生徒の実態、保護者の思いよりも、まず、高知市内の小中学校の支援学級、高知特支、を勧められることが多く、保護者もよく分からず、支援学級在籍となることがある。より丁寧な対応が求められると思う。
- (4) 特別支援学級の担任の決定の仕方も、いろいろである。高知市は、人事異動調書に、特別支援学級の担当を希望するかどうかの記入欄があるが、希望する、しないに関わらず、特別支援学級の担任として異動になる。高知市以外の学校では、校内で特別支援学級担当を決定していることが多い。

中華民國七十九年七月二十七日
交通部郵政總局
臺灣省郵政管理局
臺灣省郵政管理局公告

第 100 號

中華民國七十九年七月二十七日

查本局為便利僑胞寄信起見，特在各地設立代辦所，凡僑胞在該處寄信，均可享受本局所訂之優待。茲將各代辦所之名稱及地址公告如下，以便僑胞知悉。

一、代辦所名稱及地址：
（一）台北代辦所：台北市中正區中正路
（二）台中代辦所：台中市中山路
（三）台南代辦所：台南市中山路
（四）高雄代辦所：高雄市中山路
（五）基隆代辦所：基隆市中山路
（六）新竹代辦所：新竹市中山路
（七）嘉義代辦所：嘉義市中山路
（八）屏東代辦所：屏東市中山路
（九）花蓮代辦所：花蓮市中山路
（十）台東代辦所：台東市中山路

二、優待事項：
（一）代辦所代辦之信件，均可享受本局所訂之優待。
（二）代辦所代辦之信件，均可享受本局所訂之優待。
（三）代辦所代辦之信件，均可享受本局所訂之優待。

三、其他事項：
（一）代辦所代辦之信件，均可享受本局所訂之優待。
（二）代辦所代辦之信件，均可享受本局所訂之優待。
（三）代辦所代辦之信件，均可享受本局所訂之優待。

資料6 9月23日の声の抜粋

・支援を必要としているお子さんがいっぱい、学校に入れないと聞いています。やはり近所の学校で誰でも教育を受ける権利はあるわけですから、近いところの学校に行けたら一番いいなと思います。

・あちらの学校もいっぱいこちらの学校もいっぱい。そして新しく学校建ててくださる気持ちにはなつたけれどもちょっとキャパシティに限りがあるような学校というのではなくて、ぜひここでそういう支援が必要な子どもたちの教育を立て直す様にやっていただきたい。

・みんなの気持ちが和らいで余裕のあるような生活ができるというような、高知県になってもらいたいなと思っています。

・思いを理解していただいた支援学級の担任の先生、今できることは何かと考えてくださった交流学級の先生に巡り会えたときは本当に充実した学びをたくさんの子どもの中で過ごすことができていました。

・「できんがやき、えいわね。無理をせんでいいわね。色塗りをやりよいなさい」といって、これは私が実際目の前で聞いた言葉だったけれども、そのような先生からしたら何気ない一言や態度に、本人は深く傷ついて、家に帰って「僕何もできんがやき、やっても、やっても無駄ながやき」と言って悲しい顔したりしていることが、増えるようになってきました。

・不登校を選択した。家庭学習や放課後デイサービスでの他の子どもとの交流、県外の学習サポートをしてくださる先生などを支えにしてきました。子どもから「もう死にたい」という言葉も出たこともあるが、それを何とか繋ぎとめて、大丈夫、大丈夫と言いながら家族で支えてきました。

・教育行政の場で本当に何気ない言葉ですが、「兄弟の婚姻のさまたげにならないように育てないかん、お母さん」と出た言葉を、私は消してしまうことはできません。

・親として将来の自立や就労、もう心配は尽きることはないのですが、障害の種類や程度で子どもを見るのではなくて、目の前のそれぞれの子どものニーズに気づいて考えて、それをもとに学びを提供していただければいい教育であってほしいということを切に願っています。

・就学指導の際に、「お母さん、もし転校になるとしても、山田は無理ですよ。いっぱいだからね」という話を実際言われました。

・今の状況では高校、県立の学校に転校させたいなという思いがあります。それはなぜかということやっぱり県立の学校に行くと寄宿舎があります。寄宿舎に入れて、親から離れた生活、これを体験させたいと考えています。

・高知市には、多くのデイサービスがあるんですけども、日高の方面にはなかなかデイサービスがなくて、利用できる範囲がもう本当に限られてくる。

・知的障害があるからできないではなくて、知的障害があっても関わり方一つで、時間がかかっても

確実に成長するということを知ってほしいなと思います。

・親から離れて過ごすということはすごく大事なことだと思います。将来、この子もグループホームに入るとは思いますが、何をやるにしても親とずっと一緒にいて、いきなり、「卒業だからグループホームに入りなさい」となったとしたら、子どもがどうなるのだろうかとか、考えてしまいます。親が今、元気なうちに、明日どうなるのか私もわかりませんので、やはり寄宿舍に入って、親から離れて生活する経験をさせるべきだと思います。

・やっぱり、将来の親亡き後、私は一番ここを考えてしまいます。親が死んだときにこの子はどうなるんだろうか、そのためにも、親から離れた支援者の方たちの中で、生活をきちんとやっていけるように力をつけてあげたいと願ってます。

・学校もそうなんですけども、やっぱり寄宿舍。専門的な生活指導を願ってます。

・親御さんは、親亡き後この人はグループホームに入るのか、1人で鍵を開けてマンション暮らしができるのか、兄弟児に頼むのかなど、今現在じゃなくって先を見据えたことを考えながら、今の学校選びをしていると思います。

・学校選ぶっていうところの一つの選択肢として寄宿舍があると思います。

・学校を選択する時、今の状況では高知市内に通っているお子さんが選べない状況になっているので、やっぱり市内に県立の100名規模の寄宿舍のある高等部まである学校作りというのは、切実な願いだと思います。

・箱物をつくるのではなく、箱の中身も充実しながら、教員の方であったりとか親御さんの意識の改革であったりとかいうところも両輪で考えていかなければならないなと思っています。

・寄宿舍の大きな魅力は、子どもたち同士で響き合うとか、育ち合うとかってということだと感じます。

・落ち着けない子どもたちがいるときには、やっぱりその部屋でちょっとゆっくりしてあげるだけで気持ちを安定し、授業に向かえるんですけども、使おうかなと思っていたら、使用中であったりして、でも教室には帰れないので、ウロウロしながら気持ちを沈めるしかないとかいうことも一度や二度ではありません。